

第58回

全国学童保育研究集会

「全国研は元気の素」、2日間、存分に語りあい、学びあいましょう。ぜひ、ご参加ください！

全体会・分科会ともに会場開催には定員があります。先着順で受け付けます。



全体会

2023年11月4日（土）13:00～17:00

会場：パルテノン多摩（東京都多摩市・定員1000人）
& オンライン配信 全体会のみ、後日オンデマンド配信あり

- 12:00 受付（入室）開始
- 13:00～ 歓迎行事／開会行事／基調報告／特別報告
『日本の学童ほいく』普及拡大アピール
- 15:30～ 記念講演
「どの子も受けとめる学童保育をめざして」
丸山啓史（京都教育大学）
- 17:00 閉会

分科会

2023年11月5日（日）10:00～16:00

会場：桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス（神奈川県相模原市）
分科会により、会場とオンラインに分けて実施

分科会の開始1時間前から受付（入室）開始

- 終日の分科会 10:00～16:00
- 午前の分科会 10:00～12:30
- 午後の分科会 13:30～16:00

主催 全国学童保育連絡協議会

後援 こども家庭庁

全国学童保育連絡協議会／編集・発行

『日本の学童ほいく』

月刊／定価391円（本体355円）

働きながらの子育てと、
学童保育の実践と運動に
役立つ記事がいっぱい



随時更新中

FAX申込書などのダウンロードもできます。

第58回全国学童保育研究集会に関する情報は全国研特設サイトをのぞいてください。

▶ <http://www.2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/zenkokuken/d58/>



第58回全国学童保育研究集会のご案内

●日程と会場

* 全体会のみ、後日オンデマンド配信あり

2023年11月4日(土) 全体会 パルテノン多摩(東京都多摩市)

2023年11月5日(日) 分科会 桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス(神奈川県相模原市)

●参加費 4,000円(消費税課税対象外)

1日のみの参加・両日参加、会場参加・オンライン参加、後日オンデマンド配信のみ視聴、いずれでも同額です。

●お申し込み方法(当日受付不可。事前の参加申し込みをお願いします)

※WEBまたはFAXにてお申し込みください。

※WEBにてお申し込みの方は、下記URLよりお申し込みください。

集会参加申込URL: <http://www.mwt-mice.com/events/2023gakudo>

※集会事務局からの依頼を受け、集会参加のお申し込みを、名鉄観光サービス株式会社MICE(マイス)センターがお受けいたします。

※FAXにて申し込みの方は、申込書に必要事項をご記入のうえ、

【第58回全国学童保育研究集会 参加登録受付デスク(名鉄観光サービス株式会社MICEセンター)】

まで送信してください。

●お振り込みのご案内

■WEB申し込みの方 申し込み完了された方には、登録いただいたメールアドレス宛に参加登録完了のご案内をお送りします。参加登録完了メールに参加費の振込案内を記載しますので、指定する振込期日までにお振り込みをお願いいたします。

■FAX申し込みの方 参加申込FAX受領日より5営業日程度を目途に、FAXにて振込案内の内容をご返信しますので、指定する振込期日までにお振り込みをお願いいたします。

●お申し込み締切日 : 2023年9月30日(土) ※WEB・FAX共通

●取消料について【集会参加】

| 取消基準日 | 10月2日まで | 10月3日以降 |
|-------|---------|---------|
| 集会参加費 | 無料 | 100% |

※取消基準日とは、全国学童保育連絡協議会及び名鉄観光サービス株式会社MICEセンターが連絡を受信した日にちといたします。

●個人情報の取扱いについて

お申し込みの際にご登録いただきましたお客様の個人情報(氏名・住所・電話番号等)につきましては、名鉄観光サービス株式会社MICEセンターがお客様との連絡等に係る目的以外で利用いたしません。その他、個人情報につきましては、名鉄観光サービス株式会社MICEセンターの「個人情報保護方針」に基づき取扱い、保護に努めます。

名鉄観光サービス株式会社 個人情報保護方針、個人情報保護の対応について

<https://www.mwt.co.jp/info/kojinjohohogo.shtml>

■名鉄観光サービス株式会社MICEセンターと共有した個人情報は、本研究集会への参加申し込み受付業務と問い合わせ、本研究集会運営に必要な範囲、また参加申込者ご本人からの本研究集会への参加申し込み手続きを効率的に実施するために必要な範囲で、全国学童保育連絡協議会の管理責任のもと、提供していただいた個人情報を各都道府県連絡協議会(くわしくは、弊会ホームページをごらんください)と共同利用いたします。全国学童保育連絡協議会の個人情報保護方針に基づき、ご本人の許可なく第三者への提供は行いません。

参加登録に関するお問い合わせ

【第58回全国学童保育研究集会 参加登録受付デスク】

名鉄観光サービス株式会社MICEセンター

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2

新霞が関ビルLB階

TEL:03-3595-1121 FAX:03-3595-1119

受付時間:10時~17時(土日祝日休業)

集会についてのお問い合わせ

【集会事務局】

全国学童保育連絡協議会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13

TEL:03-3813-0477

(月曜日~金曜日/10時~17時)

E-mail d58zkk@xrh.biglobe.ne.jp

二次元コードにて
アクセスされる方は
こちら▼



会場への交通案内

11月4日(土) 全体会

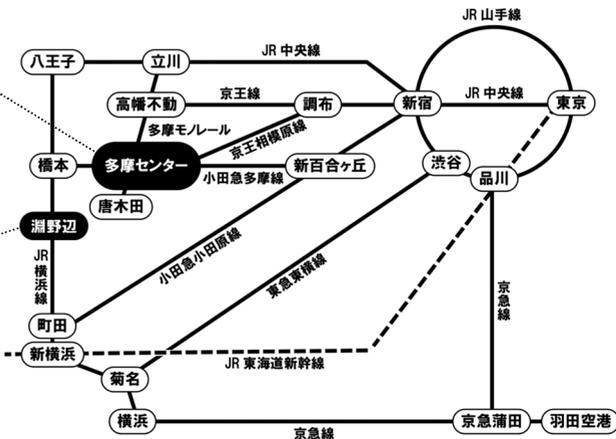
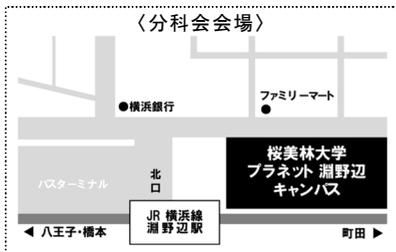
● パルテノン多摩

最寄り駅：京王相模原線、小田急多摩線、多摩モノレール
「多摩センター駅」下車、徒歩5分

11月5日(日) 分科会

● 桜美林大学プラネット湘野辺キャンパス

最寄り駅：JR横浜線「湘野辺駅」下車、徒歩1分
(「湘野辺駅」北口隣接)



● 参加にあたって

- ・本研究集会は、会場で参加、またはオンライン（インターネットを介したweb会議システム『Zoom』）で参加することができます。
- ・オンラインでの参加にあたっては、事前にパソコンやタブレット、スマートフォン等、当日使用する端末機器に『Zoom』アプリをインストールし、動作確認および受信する場所のインターネット環境をご確認ください。
*インストールやアプリの使用は無料ですが、通信費等が発生しますので、各自でご負担ください。
- ・オンラインで参加する場合、1台のパソコン（またはタブレット、スマートフォン等）で複数の方が参加することもできます。ただし、参加費は1名につき4,000円、参加者全員分の申し込みが必要です。なお、1台のパソコンで複数の方が同時に、別々の分科会に参加することはできません。
- ・10月下旬を目途に、参加に際して必要な事項を、ご指定いただいたメールアドレスへお送りします。参加券・討議資料等は、郵送します。

● 全体会会場、分科会会場ともに、駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

● 昼食、宿泊などは各自で手配してください。

● 両日とも、保育はありません。

参加者へのお願い

| | |
|-------------------------|---|
| レポート資料 | 分科会に参加者が自主的にレポートや資料を用意すること、画面共有することはできません。 |
| チラシ配布 署名・募金 カンパニア | これらの活動を行うことは集会運営に支障となりますので、認めていません。全国からの参加者にとって研究・学習の有意義な場となるよう集会を運営しています。ご理解とご協力をお願いします。 |
| など | |

11月4日(土)

全体会 ● 記念講演

全体会のみ、後日オンデマンド配信あり

「どの子ども受けとめる学童保育をめざして」

丸山啓史 (京都教育大学)

<プロフィール>

1980年大阪府生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程終了、博士(教育学)。京都教育大学准教授。専門は、障害児教育学。子どもの権利条約 市民・NGOの会共同代表。全国障害者問題研究会副委員長。全国放課後連「障害のある子どもの放課後保障全国連絡会」理事。『日本の学童ほいく』2016年9月号特集「発達障害を学ぶ一人ひとり」を大切に「学童保育の生活づくり」に、「障害のある子どものための施設について」を執筆。第57回全国研では、「障害のある子どもにとっての学童保育」助言者。単著に、『気候変動と子どもたち——懐かしい未来をつくる大人の役割』(かもがわ出版、2022年)、『私たちと発達障害——実践、生活、学びのために』(全障研出版部、2016年)など。編著に、『障害のある若者と学ぶ「科学」「社会」——気候変動、感染症、豪雨災害』(クリエイツかもがわ、2022年)など。



11月5日(日)

分科会 ● 会場とオンラインに分けて実施

希望する分科会を選んでご参加ください。

●希望する分科会を選ぶにあたって

会場開催の分科会と、オンライン開催の分科会があります。会場開催の分科会は定員(先着順)がありますので、会場参加を希望する場合は早めにお申し込みください。会場開催の分科会は「終日」の分科会のみ、オンライン開催の分科会は「終日」「AM」「PM」の分科会があります。「終日」の分科会を選んだ場合、「AM」「PM」の分科会は選べません。「AM」の分科会と「PM」の分科会は、組み合わせで2つ、選ぶこともできます(例：[AM] 1-①、[PM] 1-②)。

会場区分： 会場(桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス) オンライン時間帯区分： 10:00~16:00 10:00~12:30 13:30~16:00

| 会場 | 時間帯 | 分科会 | 分科会タイトル | 学習・交流のねらい |
|----------|--------|-----|----------------------------|--|
| 基礎講座(講義) | | | | |
| Zoom | A M | 1-① | 学童保育ってなあに?——今日の子育てと学童保育の役割 | 子育て環境の現状、保護者の仕事・職場や就労の実態をふまえて、学童保育の役割と保護者と指導員が共に子どもを育てる学童保育のあり方を学びます。 |
| Zoom | P M | 1-② | 保護者と指導員で学童保育をもっとよくなる | 「子どもが安心して生活できる学童保育にしたい」と願い、学童保育の生活内容をつくり、運営や条件整備に取り組むにあたって、保護者と指導員がどのようにかわるか、そして保護者会(父母会)と指導員の役割を学びます。 |
| Zoom | 終日 | 1-③ | 学童保育指導員の仕事ってなあに? | 指導員の仕事とはなにかを確かめ、仕事に必要な打ち合わせや記録などの日々の実務やその意味、そして学童保育をよりよくしていくうえで指導員に必要なこと・大切にしたいことを学びます。 |
| 桜美林 | 終日 | 1-④ | 学童保育の生活——大切にしたいこと【定員 130人】 | 学童保育で子どもにどのような生活を保障するか、そして保護者が安心して働くために、学童保育で大切にしたいことはなにかを学びます。 |

| 会場 | 時間帯 | 分科会 | 分科会タイトル | 学習・交流のねらい |
|--|-----|-----|--|---|
| 子ども理解と学童保育の生活づくり(実践の交流) 一人ひとりの子どもの学童保育での生活を保障し、保護者が安心して子育てと仕事等を両立できるように大切にしたいことを、実践を交流しながら学びあいます | | | | |
| 桜美林 | 終日 | 2-① | 子ども理解の視点と安心できる関係づくり【定員 70 人】 | 一人ひとりの子どもと指導員との関係から生まれる安心感をもとにした、継続的で安定した毎日の生活をつくるために、一人ひとりの子どもをどのように理解するか、子ども同士の関係をつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。 |
| Zoom | 終日 | 2-② | 学童保育の生活の見通しと流れ | 継続的で安定した毎日の生活をつくるために、子どもの状況をふまえ、平日の放課後・土曜日・長期の学校休業日など、それぞれの生活の状況に合わせての見通しと流れをつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。 |
| Zoom | 終日 | 2-③ | 学童保育の生活とあそび | 学童保育の生活の中心をしめるのは“あそび”です。子どもはあそびを楽しみ、いろいろな発見をして、人間関係を育み、成長していきます。日々の生活のなかで子ども自身が主体的にあそぶことの大切さ、また指導員があそびにかかわる意味や配慮すべき点を学びあいます。 |
| Zoom | 終日 | 2-④ | 子どもたちの生活を伝え、保護者ととも育てる | 子どもの生活の様子や指導員のかかわりを保護者に伝えること、保護者の生活や思いを受けとめ、指導員と保護者がともに子どもを育てることの大切さを学びあいます。 |
| Zoom | 終日 | 2-⑤ | 高学年にとっての学童保育 | 思春期を迎える高学年の子どもへの学校や家庭、地域での過ごし方、子どもの思い・願いを理解しながら、1年生から6年生の子どもが過ごす場である学童保育で大切にしたいことを学びあいます。 |
| 桜美林 | 終日 | 2-⑥ | 学童保育の生活づくりと食【定員 35 人】 | 学童保育に通う子どもにとって、おやつはとでも楽しみな時間です。「手づくりおやつ」ができる環境になくても、子どもがおやつづくりの計画に参加することができる視点や、食は文化にかかわることも含めて、「学童保育の生活における食とはなにか」「子どもたちの育ちにどのような影響を持つのか」について学びあいます。 |
| 桜美林 | 終日 | 2-⑦ | 障害のある子どもにとっての学童保育【定員 35 人】 | 障害のある子どもが入所している学童保育での生活づくりの実践を交流し、指導員の働きかけで大切にしたいことを学びあいます。 |
| 桜美林 | 終日 | 2-⑧ | 子ども理解と心のケア 助言者・池田美樹(桜美林大学) 【定員 35 人】 | 多発する災害、コロナ禍で、心に痛手を受けた子どもに見られる行動や、その子どもやその周囲の大人(保護者や指導員)に対して心がけること、支援者たちをどのように支えていくかについて考えます。助言者を迎え、実践を交流し、学びあいます。 |

運動を交流する分科会

| | | | | |
|------|----|-----|-----------------------------|---|
| Zoom | 終日 | 3-① | つながる“わ”保護者会・父母会の役割と活動 | 学童保育を充実・発展させる保護者会・父母会の活動を交流し、保護者会・父母会の役割と大切さを確かめます。 |
| Zoom | 終日 | 3-② | 市区町村の連絡協議会づくりと活性化 | 連絡協議会の活動を持続・発展させるための工夫、保護者・指導員が「あつてよかった」と実感した経験を交流し、市区町村・都道府県の連絡協議会の役割と大切さを確かめます。 |
| Zoom | 終日 | 4 | 公立公営の学童保育——意義と役割 | 公立公営の学童保育の実態と課題、保護者と指導員が生活内容と施策をどう充実させていくのかを交流し、公立公営の学童保育の意義・役割を確かめます。 |
| Zoom | 終日 | 5 | 保護者が運営する学童保育——役割と改善の課題 | 保護者が運営する学童保育では、指導員や地域と連携し、さまざまな工夫をしながら役割を果たしていますが、保護者の負担軽減が大きな課題になっています。保護者が担っている役割と行政の公的責任のあり方について交流します。また、安定運営や負担軽減の名目で合同運営や法人格の取得が検討されていることについても、取り上げます。 |
| Zoom | 終日 | 6 | 運営主体の変更・多様化する学童保育——実態と改善の課題 | 一つの市町村のなかでも公営・保護者会運営・法人運営等、さまざまな運営体が混在する自治体があるなど、多様化しています。さらに、運営主体の変更や、既存の法人に運営を譲渡するなどの動きも出ています。どういった運営体であれ、学童保育の当事者の願いを大切に、保育内容の標準化を図り、行政の公的責任がどうあるべきかを確かめることで、学童保育施策の実態と改善の課題を考えます。 |

| 会場 | 時間帯 | 分科会 | 分科会タイトル | 学習・交流のねらい |
|------|-----|-----|---|---|
| Zoom | 終日 | 7 | 学童保育の民営化を考える ——委託・指定管理の問題点 助言者・木村雅英(大阪自治体問題研究所) | 公設学童保育では、「人材確保・運営の効率化・サービスの拡充」などの理由で民間委託・指定管理者の運営が広がっています。民設の補助事業の学童保育でも、新たな民間事業者による運営が増えています。そのなかでも、学童保育の公共性・公益性を重視し、学童保育の当事者の願いや行政の公的責任がどうあるべきかを確かめることで、学童保育施策の実態と改善の課題を考えます。 |
| Zoom | 終日 | 8 | 子どもの放課後・地域生活を考える 助言者・増山均(早稲田大学名誉教授) | 子どもにとって放課後・地域生活とはどのような時間なのかをまず共有します。この時間を支える大人(指導員や保護者、地域の方々)が大切にしたい視点とはなにかを確かめ、学童保育でできること・地域との連携で可能になることなど、子どもが主体的に生活できる環境をどうつくりあげていけるかを考えます。 |
| Zoom | 終日 | 9 | よりよい施設を子どもたちに ——毎日の生活の場 | 施設・設備の実態と課題について、国の基準や「放課後児童クラブ運営指針」をふまえて、改善運動や工夫を交流し、学童期の子ども「生活の場」にふさわしい学童保育の施設・設備のあり方を確かめます。 |
| Zoom | 終日 | 10 | 安心して関係を築ける人数に ——「40人以下」の実現を考える | 子ども集団の規模の上限を超えて、大規模化した学童保育は、子どもたちに深刻な影響を与えます。国の基準や「放課後児童クラブ運営指針」で示された「子どもの人数はおおむね 40 人以下」を実現するための新設、分割の必要性とあり方を考えます。 |
| Zoom | 終日 | 11 | 学童保育の制度と施策の拡充の課題 | こども家庭庁が発足し、こども政策に注目が集まっています。学童保育の国の基準が策定された当初、「従うべき基準」とされた指導員の資格と配置基準が参酌化され、それに伴って条例を引き下げた市町村があります。また、地方分権一括法の附則に「施行後3年」の見直しが付されたことを足がかりに、改善を要望してきたものの、ひきつづき参酌基準とするという結論が出されています。学童保育の制度・施策の現状と課題を明らかにし、国と自治体への運動を交流し、制度・施策を充実させていくために必要なこと、行政の公的責任を求める運動の課題を確かめます。 |
| Zoom | 終日 | 12 | 指導員の専任・常勤・複数体制、労働条件 | 「専任・非専任」「常勤・非常勤」「午後からの勤務」「ローテーション」体制等の実態と課題を明らかにし、運営主体がいずれであっても、保護者と指導員が力をあわせて専任・常勤・複数体制を確立し、労働条件を改善することの必要性を確かめます。 |
| 桜美林 | 終日 | 13 | 指導員の職場づくりと指導員組織 【定員 35 人】 | 指導員の仕事に必要とされる「連携・協力」「学びあい」の実態を交流して、「職場づくり」の課題、指導員同士が学び、支えあうための指導員組織の必要性とあり方について確かめます。 |

講義と交流の分科会

| | | | | |
|------|--------|------|--|--|
| Zoom | A M | 14-① | 障害のある子どもの理解と受け入れ 講師・松浦 淳(青森中央短期大学) | 障害のある子どもの権利を保障し、保護者の思いを受けとめ、学童保育で生活するにあたって大切にしたい視点や必要な条件整備、2016 年施行の「障害者差別解消法」について学びます。 |
| Zoom | P M | 14-② | 発達障害のある子どもの理解と支援 講師・中尾正彦(日本文理大学) | 発達障害のある子どもの理解を深め、学童保育での生活、子ども同士のかわり、指導員とのかかわりで大切にしたいこと、保育するうえで求められることを学びます。 |
| 桜美林 | 終日 | 14-③ | 地域の専門機関・専門職等との連携 講師・齋藤史夫(東京家政学院大学) | 障害のある子どもとの生活づくりに必要な関係機関はどのようなものがあるのか、また関係機関との連携のあり方について学びます。 |
| 桜美林 | 終日 | 15 | 高学年の子どもたちの生活と理解 講師・得丸浩一(京都・小学校教諭) 【定員 130 人】 | 高学年の子どもたちの心と身体の特徴、生活、願い・思いを確かめ、高学年の子どもたちに保障したい放課後の生活や、学童保育や家庭で大切にしたいことを学びます。 |
| Zoom | 終日 | 16 | 子どもの権利を学ぶ 講師・齋藤史夫(東京家政学院大学) | 子どもが一人の人間として、命を守られ、成長する権利、最善の利益と意見を尊重することなどが「子どもの権利条約」でうたわれています。子ども一人ひとりの声を聴き、子ども自身の判断や考えを尊重するために、学童保育や家庭で大切にしたい子どもの権利を学びます。 |

| 会場 | 時間帯 | 分科会 | 分科会タイトル | 学習・交流のねらい |
|------|-----|-------|---|---|
| 桜美林 | 終日 | 17 | 今日の子どもの問題を考える 講師・松田洋介(大東文化大学) 【定員 200 人】 | SNSをはじめとしたインターネットの利用や、いじめ、不登校、引きこもり、学級崩壊、少年犯罪など、今日の子どものめぐる状況を明らかにし、子ども理解を深めることの大切さ、子育てや教育の課題を学びます。 |
| Zoom | PM | 18 | 学童保育と学校 ——保護者と指導員と教師のかかわり 講師・西田 佳(東京・小学校教諭) | 今日の学校・教師・子どもをめぐる実態や動向、子育ての願いや子どもの生活を保護者・指導員・教師が伝えあうことの大切さを、それぞれの実践から学びます。 |
| Zoom | AM | 19 | 子どもの気持ちに気づく ——家庭で、学童保育で 講師・杉田真衣(東京都立大学) | 働きながら子育てをしている保護者の状況や思い、願いもふまえ、一人ひとりの子どもの思いや気持ちに耳をかたむけ、気づくこと、理解を深めること、信頼関係を築いていくことの大切さを学びます。 |
| Zoom | PM | 20 | 性について考える 講師・中村好子(京都・元養護教諭) | からだと心が大きく変化・成長する児童期に、からだと心の変化・成長についての基礎知識をはじめ、生活をともにする大人・保護者が学んでおきたいこと、配慮すべきこと、大切にしたいことを学びます。 |
| Zoom | AM | 21 | 子どもの発達と学力 講師・馬場久志(埼玉大学) | 子どもの成長・発達についての知識をもとに、学力とはなにか、学力の土台になるもの、子どもの発達を保障するために家庭・学童保育・学校で大切にしたいことを学びます。 |
| 桜美林 | 終日 | 22 | 子どもの遊び・仕事・学び 講師・代田盛一郎(大阪健康福祉短期大学) 【定員 130 人】 | 遊びを中心とした幼児期の生活から、学童期は学びの要素が増えてきます。子どもは日々の生活のなかで、遊び・仕事・学びを通じ、人やモノ、社会とかかわりあい、成長発達していきます。子どもにとっての遊び・仕事・学びの大切さと、大人のかかわりを考えあいます。 |
| Zoom | AM | 23 | 子どものからだと生活 講師・中島綾子(東京・養護教諭) | 生活様式・社会状況の変化とともに、さまざまな問題が生じています。今日の子どものからだの特徴、成長期にある子どもの健康について考えるうえで家庭・学童保育・学校で大切にしたいことを学びます。 |
| Zoom | PM | 24 | 学童期の子どもと食 講師・平本福子(宮城学院女子大学名誉教授) | 子どもが食事づくりに参加することの視点、食は文化にかかわる基本であることも含めて、「学童期の子どもにとって食とはなにか」「子どもたちの育ちにどのような影響を持つのか」について学びます。 |
| Zoom | AM | 25 | 働きながらの子育てと家族・家庭 講師・上西充子(法政大学) | 働きながら子育てをしている保護者の状況、仕事・職場の実態をふまえ、家族・家庭の役割、働きながら子育てする環境を築くうえで大切なことについて学びます。 |
| Zoom | AM | 26 | 困難を抱える家庭を支える学童保育 講師・川松 亮(明星大学) | 「子どもの貧困」「児童虐待」についての実態と課題を学び、どの子どもにとっても安心して過ごせる場所であり、困難を抱える子どもや保護者を支える学童保育の役割について考えます。 |
| 桜美林 | 終日 | 27 | 社会保障・児童福祉、自治体をめぐる政策動向と課題 講師・石原剛志(静岡大学) 【定員 35 人】 | 社会保障の現状と課題、公的保育制度の動向、権利としての福祉、今日の自治体の政策動向と国や自治体の役割と責務、子育てと仕事等を両立することの保障を確立するための運動の課題を学びます。 |
| Zoom | 終日 | 特設(A) | 学童保育の「安全」を考える | 「子どもの命と安全を守る」事業であることと、2024 年度から児童福祉法改定によって、安全計画の策定が義務づけられることを受けて、「成長過程にある子どもの、遊びや生活のなかでの『危険』をどのように考えるか」「子ども自身が自らの身を守る力(感覚・判断・身体能力)を付けられるように、適切な保護や援助を行うことの必要性」、また、安全を担保するための子ども集団の規模の上限や職員体制など、生活づくり、施設の運営管理、運動の3つの側面から交流します。 |
| Zoom | 終日 | 特設(B) | 学童保育の防災～災害への備えを考える 助言者・野津 牧(名古屋市熱田福祉社会危機管理ガイドラインアドバイザー・元名古屋短期大学) | 突如の災害。子ども・指導員・保護者の命と安全を守るかどうかは、日ごろの備えにかかっています。防災のためには学童保育ごとに安全計画を策定し、共有しておくことが必要です。防災マニュアルづくりを講義とワークショップで学びます。 |

第58回全国学童保育研究集会 **F A X 申込書** 受付期間：2023年7月5日(水)～9月30日(土)

必要事項をご記入のうえ、下記へお申し込みください。※拡大コピーしてご記入ください。

申込先：第58回全国学童保育研究集会 参加登録受付デスク F A X : **03-3595-1119**

1台のPC等から複数人で参加する場合も、参加者全員分の申し込みが必要です(申込書は、1人1枚ご記入ください)。

| | | | |
|-----------------------------------|--|------------|--|
| 氏名 | フリガナ | 立場 | <input type="checkbox"/> 保護者(OB・OG含む) * 放課後児童支援員・補助員 <input type="checkbox"/> 学童保育指導員(*) 経験年数()年目 <input type="checkbox"/> 児童館職員 <input type="checkbox"/> 運営関係者 <input type="checkbox"/> 自治体職員 <input type="checkbox"/> 議員 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他() |
| 在籍・勤務・所属する学童保育の所在地・学童保育名 | 都・道 府・県 | 町・村 区・市 | 参加方法 *当てはまるものに✓をつけてください *〔 〕内のいずれかに○をつけてください <input type="checkbox"/> 1日目〔会場・オンライン〕 <input type="checkbox"/> 2日目〔会場・オンライン〕 <input type="checkbox"/> オンデマンド視聴のみ |
| 希望分科会名(※1) | 希望① () | 希望② () | |
| 資料の送付先 ※建物名や学童保育名等、正確に記入してください | (職場・自宅・その他) | | |
| 電話番号 | — | — | |
| FAX | — | — | |
| 当日の連絡先 | — | — | (当日、連絡が可能な電話番号) |
| 当日の受信機器 | <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> タブレット <input type="checkbox"/> スマートフォン *当てはまるものに✓をつけてください | | |
| メールアドレス(※2) | | | |
| 備考 | | | |

※1 全体会・会場開催の分科会は定員があります。

■全体会：おおむね1000人

■分科会：右表参照

先着順ですので、会場参加を希望する場合は早めにお申し込みください。

※1 オンライン開催の分科会は、「終日」の分科会を選んだ場合、「AM」「PM」の分科会は選べません。「AM」の分科会と「PM」の分科会は、組み合わせで2つ選ぶこともできます。

※2 携帯電話会社が提供するキャリアメール(***@docomo.ne.jpなど)では、主催者側からのメールが届かない場合があります。

「@mwt.co.jp」からのメールが受信できるよう設定をお願いいたします。

※2 当日、主催者側から連絡することがあります。当日も確認できるメールアドレスをご記入ください。

会場開催の分科会

*「終日」のみ

| 分科会 | 分科会タイトル | 定員 |
|------|--------------------------|-----|
| 1-④ | 学童保育の生活——大切にしたいこと | 130 |
| 2-① | 子ども理解の視点と安心できる関係づくり | 70 |
| 2-⑥ | 学童保育の生活づくりと食 | 35 |
| 2-⑦ | 障害のある子どもにとっての学童保育 | 35 |
| 2-⑧ | 子ども理解と心のケア | 35 |
| 13 | 指導員の職場づくりと指導員組織 | 35 |
| 14-③ | 地域の専門機関・専門職等との連携 | 35 |
| 15 | 高学年の子どもたちの生活と理解 | 130 |
| 17 | 今日の子どもの問題を考える | 200 |
| 22 | 子どもの遊び・仕事・学び | 130 |
| 27 | 社会保障・児童福祉、自治体をめぐる政策動向と課題 | 35 |

このほか、オンライン開催の分科会があります。くわしくは裏面をごらんください。